

ハ理想トヤ工場委員制度ノ妥實ヲ高唱シ
會社ニ迫リタルモ之ヲ容シラシサリシ爲ノ相率ニ
テ罷業ヲ爲サシムルニ至リタルモノニシテ勞働者
ノ莫意、當初ヨリ解雇手當ノ制定ヲ要求スル
ニアリシガ、實川等ノ高遠ナル理想ニ幻惑セラレタル
結果、解雇手當ノ如キハ密下口ニテ附隨ノ要求
事項トナシ、盲目ニ專ラ委員制度ノ妥實ヲ
標榜シテ、遂ニ突進スルニ至リタルモノニシテ、其
後會社重役ノ口吻ニ徴スルモ、彼等カ若シ當初
ヨリ衷心解雇手當ノ制定ヲ要請シ、外ラニ公會
社ニ於テモ、或程度迄之ヲ認容スヘキ意嚮アリ
シト認メラハ、事情アリ、或ハ本件ノ如キ爭議ニ
之ヲ未前ニ防止シ得タリシヤ、圖ニシ、此点ハ確ニ
勞働者側ノ一大失策タルト同時ニ、又一面ニ、官憲
ノ視察が、偶々其真諦ニ觸レサリシニ、原因スルモ
ノニ非ルカ、殊ニ會社ハ爭議前ヨリ、早晩工場委
員制度ヲ妥實施スヘキ意圖アリシニ、拘率議ノ
結果之ヲ妥實施スルハ、將來累ヲ他ニ及ボスノ

慮アリト爲シ、最後迄勞働者ノ要求ヲ峻拒
シタルモノト想像スヘキ理由アリ、會社ノ苦衷
察スルニ餘リアリト雖モ、社長ノ外遊ニ名ヲ藉
リテ、勞働者ノ要求ヲ一蹴ニ去リ、彼等ヲシテ自
暴自棄ニ陥ラシメタルハ、決シテ賢明ノ策ニカ
ラス、况ヤ勞働者カ、特使ヲ派遣シテ、社長ノ意
嚮ヲ確メ、シットヲ哀訴シタル莫情ハ、委員制度
ノ即時妥實施ヲ強要スルモノニアラズ、シテ、會社ノ決
意ニカキトモ、數ヶ月ノ餘裕ヲ與ヘントスル一種
ノ雅量ヲ示シタルモノト謂フヘク、其尙、而モ、若シ
協点ヲ發見シ得ヘカリシニハ、非リシヤ、惟ハ、サレテ
得ス、殊ニ、彼ノ青襟組ノ暴行事件、如キ假令
會社ノ辯明スルカ、如ク全然、人會社ノ周知ヤ、サレ
モ、付トスルモ、當時ノ如キ場合ニ多數ノ無賴漢ヲ
工場内ニ、代營セシムルカ、如キハ、決シテ、適當ナル措
置トシ、得サルノミナラズ、之カ爲ノ穩健ナリ